

【南九州税理士会会長賞】

税と私

竹田市立竹田中学校

三年 清水 麓歌

今から六年前、消費税が八%から十%と二%アップした。まだ、小学生だった私は、「十%なんて高すぎる！」そう思った記憶がある。でも正直に言えば、何を基準にして高いと思っただのかはあやふやで、税とは何か、税の大切ささえ全くわかってはいなかった。

さて、私の家は、黒毛和牛の繁殖農家を営んでいる。産まれた子牛を約九か月間育て、市場に出荷する。父も、五年に二回開催される和牛能力共進会に出場、家族全員で鹿児島まで応援に行ったこともある。父が手塩にかけ育てた牛の売り上げは一頭当たり百万円未満だ。うだが、今、畜産業界は、国際的な飼料相場の高騰に加え、円安も重なって非常にコストがかかり、とても経営が厳しいそうだ。そこで、年間千五百頭以下の出荷なら、所得税と住民税が免除されるという。母に聞いたところ、この制度のお陰で随分助かっていると言う。他にも、国や県、市からの補助金が様々な名目で支給されるとも聞いた。それらの補助金や助成金で何とか持ちこたえているとの事だ。このように、我家でも税によって助けられていることがわかった。そこで、税による日本の農家や農業に対するサポート体制が他にないか調べてみた。すると、新規就農者向けの就農準備資金、経営開始資金、経営発展支援の助成をはじめ、設備投資や規模拡大をめざす就農者へのバックアップ事業、人材育成や人材確保を目的とした支援、震災や台風、積雪など自然災害により被害を被った人々が受けられる補償制度と多岐に渡る事がわかった。税の力により農業がこんなにも支え守られているのかと初めて知った。

日本では、少子高齢化が一層進み、人口減少の一途をたどる。授業では、農業従事者も年代と共に激減していると勉強した。一方、国際レベルでは今後、地球温暖化等による異常気象と、それによる農産物の不作、地球人口が百億人を突破し、途上国から新興国になった国々のカロリー摂取量の増加、それに伴う日本への輸出货量低下が危惧され、このまま今の飽食を続ければ、深刻な食糧危機を迎える日もそう遠い未来ではないらしい。つまり、税金で農業を守ることは、一つのSDGsではないかと私は思う。農業離れを食い止め、自国の自給率を堅持し、持続可能な社会を未来の子孫に残す取組で間違いないからだ。

近い未来、私も社会人となり、納税者という立場を迎える。その時「こんな色々お給料から引かれるのか。」とビックリすることもきつとあるだろう。しかし、一生懸命働いたお金で税金を納め、それは何かに形を変えて誰かのために必ず役に立っていることがわかった今、税金が高いからとか嫌々思わず「みんなの税」という気持ちを持って、納税したいと思う。人懐っこい牛が出荷される度、悲しい思いが込み上げていた。でも、彼らも所得税として社会に貢献している。そんなことを思いながら、今日も牛舎へ足を運ぼうと思う。